

千葉県感染症発生動向調査情報

2016年 第4週 (1/25-1/31) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	4週	3週	2週	1週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	4
インフルエンザ*	28	28	28	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 1/18-1/24 3週
		注意報	1/25-1/31	1/18-1/24	1/11-1/17	1/4-1/10	
			4週	3週	2週	1週	
小児科	RSウイルス感染症		6 0.33	8 0.44	3 0.17	11 0.61	39 0.29
	咽頭結膜熱		3 0.17	6 0.33	2 0.11	3 0.17	47 0.35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51 2.83	64 3.56	52 2.89	33 1.83	552 4.09
	感染性胃腸炎		149 8.28	186 10.33	183 10.17	164 9.11	1,110 8.22
	水痘		11 0.61	17 0.94	12 0.67	26 1.44	87 0.64
	手足口病		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	10 0.07
	伝染性紅斑		15 0.83	18 1.00	8 0.44	19 1.06	123 0.91
	突発性発しん		6 0.33	14 0.78	19 1.06	14 0.78	69 0.51
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00
流行性耳下腺炎	○	11 0.61	7 0.39	15 0.83	13 0.72	124 0.92	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★★★	845 30.18	439 15.68	164 5.86	39 1.44	3,039 14.13
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		5 1.00	2 0.40	1 0.20	4 1.00	22 0.67
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	3 3.00	1 1.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体の検出等	結核	女性	60歳代	病理学的特徴的所見
結核	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出等	結核	女性	70歳代	IGRA検査等
結核	男性	80歳代	画像診断	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	50歳代	病原体の検出
結核	女性	10歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	播種性クリプトコックス症	女性	60歳代	病原体の検出等
結核	女性	40歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第4週は、結核9件(19)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(5)、播種性クリプトコックス症1件(1)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第4週のコメント

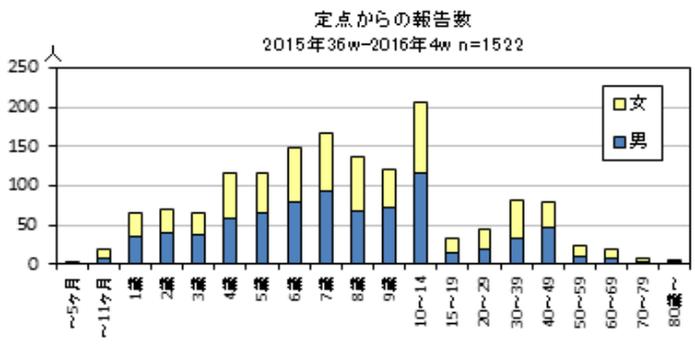
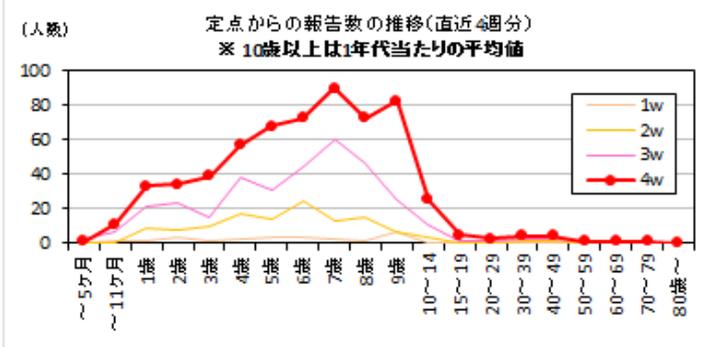
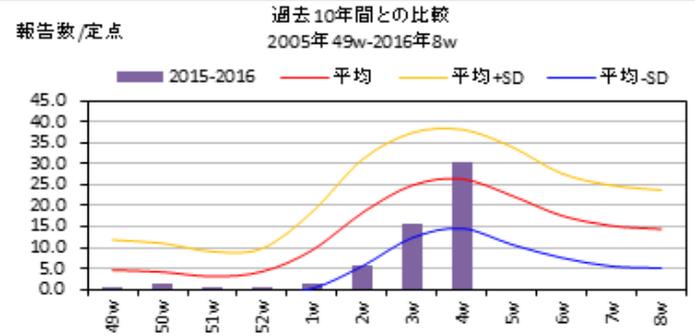
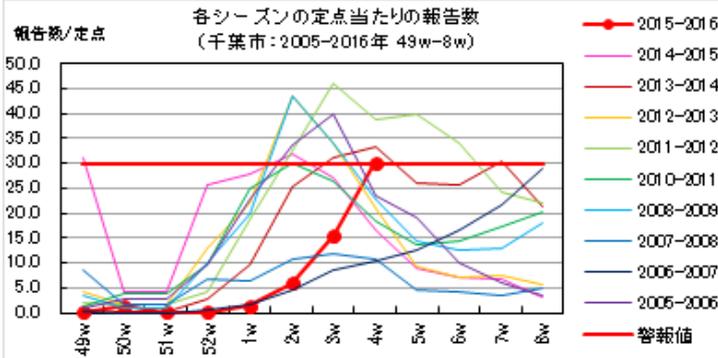
<流行性耳下腺炎> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ> 前週より大幅に増加し30.18となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第3週は、過去9年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、新潟県、沖縄県、青森県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2016年第4週は前週より大幅に増加し30.18となり、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区、中央区、稲毛区で流行発生警報開始基準を上回り、若葉区(46.25/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳で最も多く発生報告がありました。他の区は全て流行発生注意報(10.0/定点)を上回っています。今シーズンである2015年第36週から2016年第4週までの累積報告数(n=1522)によると、性別では男性が53.0%(807名)、女性が47.0%(715名)で、年齢階級別では7歳(10.91%:166名)、6歳(9.72%:148名)、8歳(8.94%:136名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の83.0%、10歳未満は全体の67.4%となっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第3週は、過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、佐賀県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第4週は前週から増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多で、同区の5歳、6歳、8歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2016年第1週から第4週までの累積報告数(n=46)によると、性別では男性が63.0%(29名)、女性が37.0%(17名)で、年齢階級別では7歳(23.9%:29名)、10歳代前半(15.2%:7名)、3歳及び6歳(共に10.9%:5名)の順で多くなっています。

